

価値創造を支える基盤

地域社会 の持続的 発展への貢献



高い公共性を有する運輸業を中心に、地域社会に密着した事業を営む京阪グループにとって、今後も持続的に発展していくためには、地域社会との共生は重要な使命です。今後も京阪グループでは、地域の活性化や課題解決、地域とのコミュニケーション強化などに寄与する事業活動や社会貢献活動のさらなる推進を通じて、地域社会との信頼関係を構築し、地域社会とともに持続的な発展を目指していきたいと考えています。



エリアの持つ魅力を活かした地域活性化に向けた取り組み

▶ 中之島エリアのブランド醸成

京阪グループでは、中之島エリアの魅力をさらに高めるべく、地域や島内の企業と連携し、文化・芸術交流や賑わい創造に取り組んでいます。

当社では、2008年の京阪電車中之島線の開業に合わせて、なにわ橋駅地下1階コンコースに開設した「アートエリアB1」にて、「アート」「知」などをテーマにさまざまなプログラムを実施し、同駅が「コミュニケーション空間としての駅」となることを目指しています。

また、芸術をきっかけに中之島を訪れ、愛着と理解を深めていただくとともに、中之島が持つ「文化・芸術の地」というイメージの発信を目指すアートイベント「キテ・ミテ 中之島」を2012年より開催。沿線の幼稚園や学校でワークショップを行い制作した作品を、アーティストの作品とともに中之島線各駅に展示したほか、さまざまな企業や地域との連携イベントを展開しています。

2017年8月には、当社を含む中之島に関わりの深い企業・団体が連携し、通算5回目となる「中之島なつまつり2017」を開催。中之島で働く方や暮らす方との新たなコミュニティづくりを図るイベントとして、多くの方にお楽しみいただきました。



アートエリアB1



キテ・ミテ中之島



中之島なつまつり2017

▶ 淀川舟運の活性化

京阪グループは、枚方市および国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所と連携し、淀川舟運の活性化とそれを通じたまちの魅力向上に取り組んでいます。

その一環として、2017年度より、天満橋・八軒家浜船着場と枚方船着場を結ぶ観光船「淀川浪漫紀行」を大阪水上バス(株)が運航開始。今後は、関係各所と協力しつつ舟運エリアの拡大を図るなど、水辺とまちを一体的に捉えた地域活性化に取り組んでいきます。



淀川浪漫紀行

▶琵琶湖疏水通船復活事業への参画

京阪グループは、大津市および京都市とともに、琵琶湖疏水(びわ湖の湖水を京都へ引くため明治時代に建造された人工運河)とその周辺エリアの観光資源化に取り組んでいます。2015年からは、かつて往来していた舟運の観光船としての復活を目指し、観光通船試行事業を琵琶湖汽船株の運航のもと実施。2018年3月には本格運航に移行し、多数のお客さまにご乗船いただいています。



琵琶湖疏水通船

▶京阪電車大津線における地域活性化の取り組み

京阪電車大津線は、地域に密着した公共交通機関として、市民団体や地域の活動との連携を図るなど、地域社会とのコミュニケーションを大事にしています。

「大津の京阪電車を愛する会」とは、年間を通してさまざまな取り組みを展開。2017年には、会員限定感謝祭や貸切電車撮影会、クイズラリーなどを開催し、多くのお客さまにお楽しみいただきました。「石坂線21駅の顔づくりグループ」とは、駅を拠点としたコミュニティづくり活動として、各駅に掲示板を設置。大津市と大津市教育委員会による「大津っ子まつり」では、ミニ電車を運行するなど、大津線に親しみを感じていただくことで、お客さまから愛される鉄道を目指しています。



大津っ子まつり

地域社会とのコミュニケーションの強化

▶お客さま感謝イベントの開催

京阪グループでは、地域にお住まいのお客さまに感謝の気持ちをお届けするとともに、京阪グループをより身近に感じていただくため、さまざまなお客さま感謝イベントを継続的に開催しています。

2017年度には、京阪電気鉄道株が寝屋川車両基地と大津線の錦織車庫にて「ファミリーレールフェア」と「大津線感謝祭」を開催しま

した。また、叡山電鉄株は修学院車庫で「えいでんまつり」を、京福電気鉄道株は西院車庫で「らんでんフェスタ」をそれぞれ開催。電車の操作体験など、普段はなかなか見たり触れたりすることができない電車の魅力を体感できるさまざまなイベントを実施し、多くのお客さまにご来場いただきました。



ファミリーレールフェア



大津線感謝祭



えいでんまつり



らんでんフェスタ

▶教育活動への協力・貢献

京阪グループでは、沿線のさらなる活性化や将来のファンづくりなどを旨とし、沿線大学との連携強化や小中学生を対象とした体験学習、見学会の実施などに取り組んでいます。

京阪ホールディングス株では、2010年より、同志社大学などとの連携イベント「サークルステーション IN 三条」を展開するなど、産学連携の取り組みを推進しています。

京阪電気鉄道株では、1998年より、沿線の中学校を中心に車両工場での体験学習を受け入れているほか、学校団体を対象とした見学会を受け入れています。京福電気鉄道株では、西院車庫において、沿線の小学生に安全を守る仕事や公共交通機関の利用マナーなどを学んで

いただく「嵐電教室」を2015年より実施。そのほか、グループ各社が自治体からの要請に応じ、職場体験学習を受け入れています。



2017サークルステーション IN 三条



嵐電教室

▶ 地域に根差した商業施設の運営

㈱京阪流通システムズでは、同社の展開するショッピングセンターをご利用いただくお客さまをおもてなしし、ともに楽しむことを目的に「おまつり委員会」を、㈱京阪百貨店では、百貨店をよりおもしろい、楽しい場所だと感じていただくことを目的に「おもしろプロジェクト」を展開。さまざまなイベントを開催することで地域のお客さまとのつながりを重視した商業施設の運営を目指しています。

また、食品フロアに強みを持つ㈱京阪百貨店では、高品質でおいしい、安全安心な食の提供を心がけるとともに、食文化の継承やお客さまと生産者の交流促進などを目的に、「食育」をテーマとした活動を実施しています。2017年度は、抽選で選ばれたお客さまを対象に、れんこん掘り体験や地元のれんこん料理を堪能するツアーを開催したほか、相愛大学と共同で、オリジナルのどんぶりやスイーツを販売するなど、各種イベントを展開しました。



サンタがお家に来てくれる!



「食育」をテーマにした活動(れんこん掘り体験)

オーガニック食品の普及拡大に向けた取り組み

㈱ピオ・マーケットでは、有機農産物や有機加工食品などを販売しています(P.15参照)。

有機農業は、化学合成された肥料や農薬に頼らず、人や自然環境への負荷を最小限に抑え、循環型社会の保全に寄与しますが、その普及のためには、生産者・製造者の方々や消費者の相互理解やコミュニケーションが不可欠です。

食の安全安心に対する関心が高まるなか、同社では、生産者・製造者の方々との協働体制を築くとともに、産消交流イベント「オーガニック・ライブ」や、体験農場「リサーチ・ファーム」など、さまざまな企画を通じ、おいしくて安心なオーガニック食品の生産・流通の拡大に取り組んでいます。



オーガニック・ライブ

▶ 社会貢献・社会福祉活動への協力

㈱樟葉パブリック・ゴルフ・コースでは、NPO法人大阪視覚障害ゴルフフェーズ協会主催「大阪視覚障害者親睦ゴルフ大会」の開催と、年間約10回の練習ラウンドの実施に協力しています。

京都タワーでは、通常は白色の塔体の夜間ライトアップを、各種キャンペーンのメッセージカラーに変更し、さまざまな啓発活動に協力しています。また、地域の児童福祉施設のお子さまに向け、節分や桃の節句、端午の節句に合わせて、マスコットキャラクター「たわわちゃん」が施設を訪問し、手作りのケーキをお届けするイベントの開催や展望室への招待を行うなど、社会貢献活動に取り組んでいます。



世界自閉症啓発デーへの協力(ブルーにライトアップ)



ブラインドゴルファー競技大会

地域の環境保全に関する取り組み

▶ びわ湖エリアの自然との共生に関する取り組み

びわ湖を舞台に観光船を運航する琵琶湖汽船㈱では、環境方針に「琵琶湖との共生」を掲げ、事業基盤であるびわ湖における環境保護活動に積極的に取り組んでいます。

環境体験学習に対応した観光船「megumi」による「びわ湖環境体験学習クルーズ」を運航しているほか、宿泊体験型の学習船「うみのこ」の運航も受託。学び体験の観点からのびわ湖環境保護活動に取り組んでいます。また、びわ湖の自然や食文化を体感できるクルーズにも注力しており、2009年からは「鮎ずし作り体験クルーズ」を開催しています。

同じくびわ湖畔で営業する琵琶湖ホテルでは、「食えることが守ることを」合言葉に、棚田米などの地元の食をメニューに取り入れることで、産地である里山の環境保全を目指す取り組み「里山の食彩」を実施。累計200t以上の棚田米を使用し、約42haの棚田保全に貢献しています。また、棚田米が生産される田んぼの畦をモデルとした自然環境を敷地内に再現する「山野草プロジェクト」にも取り組んでいます。



学習船「うみのこ」



鮎ずし作り体験



山野草プロジェクト